

# 沖縄県における野菜事情



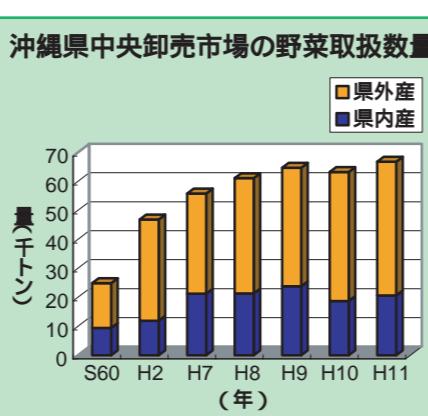
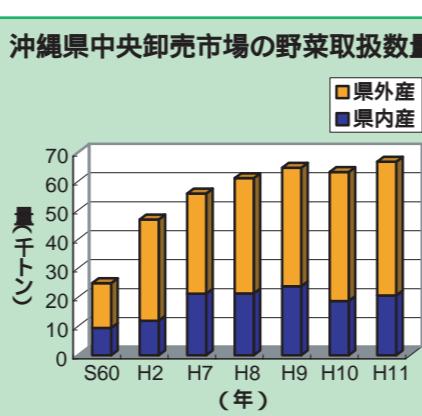
沖縄県の野菜は、温暖な気象条件を活かして、本土の端境期である冬春期を中心に生産・出荷しており、本土市場向けの野菜供給産地として定着しつつあります。

## 1 沖縄農業における野菜の位置付け

平成十一年の野菜の農業粗生産額は百二十三億円で、耕種部門においてさとうきび（百九十七億円）、花き（百三十七億円）に次ぐ重要な作物となっています。

## 4 沖縄県中央卸売市場における野菜の取扱状況

沖縄県中央卸売市場における野菜の総取扱量は、平成十一年には六万七千トン、金額では百四億円と年々増加傾向にあります。また、月別県内外産別の野菜の取扱状況をみると、県内産が過半を占める月は、三月～四月までの僅か二月間となっています。これは、夏秋期の野菜生産が、台風、干ばつ、高温、病害虫の発生等の厳しい条件下であるため、県内野菜の生産量が特に少なく、県外産に依存していることが大きな要因となっています。



## 5 今後の課題

県内における指定野菜産地は、昭和六十二年度の勝連町津堅の春夏・冬にんじんの指定をはじめ、これまでに十産地が指定されており、これら野菜産地を中心とした野菜の生産振興が図られています。これまでの市場へ出荷されています。

## 6 セーフガード暫定措置について

政府は、四月二十三日から、ねぎ、生しいたけ、畳表の三品目にについてセーフガード暫定措置の発動を開始しておりますが、その内容は、四月二十三日から十一月八日までの二百日間において、一定の輸入数量までは現行関税率を適用



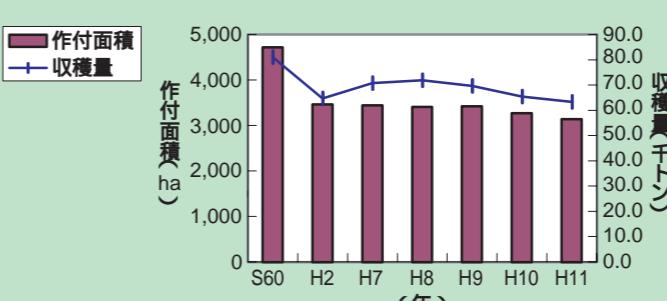
**ねぎ等に対して暫定的に課する緊急関税について**

1. 関税割当  
(以下の数量については現行関税率が課される)  
(1) ねぎ: 5,383トン  
(2) 生しいたけ: 8,003トン  
(3) 畠表: 7,949トン
2. 関税  
(上記の数量を超える輸入については現行関税率に加え、以下の関税率が課される)  
(1) ねぎ: 225円/kg  
(2) 生しいたけ: 635円/kg  
(3) 畠表: 306円/kg
3. 施行期日 平成13年4月23日

しかししながら、産地や年によっては生産量や仕向先等にばらつきが生じていることから、安定的な生産・出荷体制を確立することが重要な課題となっています。

用し、それを超えるものについて一定レベルの関税をかけることとしています。

## 沖縄県の野菜の作付面積と収穫量の推移



## 沖縄県の主要野菜の生産量推移



県内における最近の野菜の生産状況をみると、作付面積はこれまで漸減傾向で推移し平成十一年には三千百四十ヘクタール、収穫量も一時増加したものの総体的には減少傾向で推移し平成十一年には六万三千三百トンとなっています。減少した主な理由は、農家の高齢化による後継者不足や長期にわたる野菜価格の低迷等があげられます。

県内主要野菜の生産動向について、昭和六十年から平成十一年までの推移をみると、にがうり(二百%)、すいか(二百%)、ばれいしょ(百十三%)、レタス(百九%)が増加しており、一方、かぼちゃ(十%)、キャベツ(七十%)等が減少しています。

## 2 野菜の生産動向

## 3 品目別の生産動向